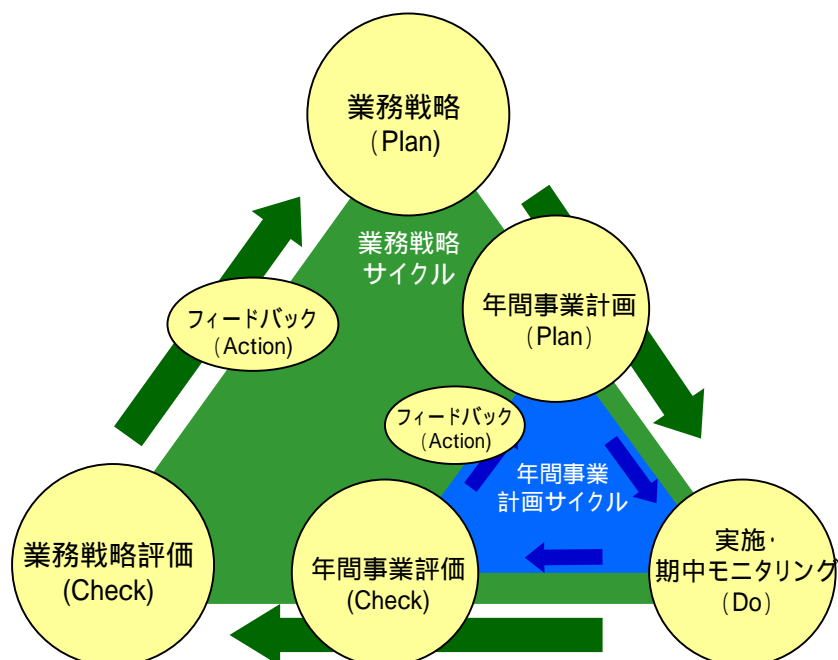


業務運営評価制度は、業務運営の自律的な改善を図る目的から、自ら目標設定(企画立案 [Plan])し、目標達成に向け業務を行い(実施 [Do])、その結果を評価し(評価 [Check])、業務の改善および目標の見直し等(フィードバック [Action])を行う「PDCAサイクル」に基づき運用されている。

同サイクルは、下図1のとおり、中期的な業務戦略レベルと年度毎の年間事業計画レベルの2つのサイクルから成っており、これまで、年間事業サイクルの「Check」として、平成14年度および15年度の年間事業評価を実施している。また、現在、平成16年度年間事業計画に基づき業務を実施しており、本年9月に平成16年度年間事業評価書を公表する予定である(制度の運用状況については次頁の図2参照)。年間事業評価では、年間事業計画の取り組み状況や達成度合いを評価し、それを踏まえ、業務の改善につなげること(フィードバック)に主眼を置いている。

一方、業務戦略サイクルの「Check」にあたる業務戦略評価は、業務戦略実施期間中の外部環境の変化、業務戦略上の課題への取り組み状況等を分析し、これらを踏まえ次期の業務戦略(Plan)につなげていく(フィードバック)ための評価と位置付けており、次期業務戦略の作成にあたっては、本評価結果を反映するとともに、経済社会情勢、国民の要請や利用者・受益者のニーズの変化を改めて把握し、適切に反映していくことになる。なお、次期業務戦略は、平成17年度当初から運用する予定である。

(図1) 中期・年間のPDCAサイクル



(図2) PDCA サイクルに基づく制度の運用状況

